

納^ナ利^リ舍^{シエ}を此に封じ、明の永樂二年(五年四百)には、哈密王安克特穆彌入朝す。太宗之を忠順王に封じて哈密衛を置けり。同八年(十年四百)安克特穆爾の從子、托里特穆爾を忠義王に封ず。宜徳元年(千四年百二)布達錫里なる者をして、忠順王の後を襲かしめ、以來二王共に入朝せるが、成化二年(千四年百六)吐魯番の酋長阿里、哈密を襲ふて之を陥れしも、後哈商^{ハシヤン}の克復する所と爲り、憲宗彼を忠順王に封せり。

其後吐魯番酋長阿里の子、阿哈瑪特、結婚に託して哈商を誘殺するや、憲宗、善巴^{シヤンバ}を哈密王に封じ、更に哈商の弟、恩克保喇^{エンクバトラ}を都督同治に、阿穆呼朗^{アムホラン}を都督僉事に擧げ、以て善巴を輔けしめしが、阿哈瑪特再び之を襲ひて善巴を捕ふ。是に於て憲宗、嘉峪關を閉ぢ、吐魯番の貢使を逐ひ、兵を發して哈密を攻む。阿哈瑪特恐懼措かず。善巴を還へす。正徳八年(千五年百三)哈密の巴雅濟^{バヤチ}叛きて吐魯番に走る。吐魯番の酋長阿哈瑪特の子、莽蘇爾^{モンズル}、和卓塔濟^{ホクトチ}、廸音^{ディン}をして此地に據らしめ、以來哈密の屬邑十三箇、盡く吐魯番に歸し、遂に復た王を立てず。其の首領は吐魯番の回民にて、蒙古忠順王の裔にあらずと云ふ。

清興りて康熙、雍正の頃、準噶爾^{ジュンガ}汗と争ひ、遂に哈密を奪ふや、清、別に城を築きて戍